次期学習指導要領 教科別まとめ　　中学校 No.04

審議まとめ（2026年10月5日）を**中学校の先生向け**にまとめ直しました

理科

次期学習指導要領で、どう変わる？

小中高を4分野でつなぎ、デマに流されない科学の目を育てる





10秒でいうと　「科学とは何か」や研究倫理を学ぶ「科学ガイダンス（仮称）」を新設する案

やさしく言うと

中学校の理科は、「科学ガイダンス」を新しく設ける方向です。
科学とは何か、理科の全体像、研究倫理などを学ぶ内容です。
内容は小中高共通の4分野（物理・化学・生物・地学）で整理する方向です。新しい見方・考え方には、社会の言説も科学の目で批判的に考えることが入る案です。SNSでデマが広がる時代への対応とされています。

中学校はいつから？

全面実施	**2031年度（令和13年度）から（見込み）**
移行期間	2028～2030年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2031年度から新しい教科書（2029年度に検定）

この冊子の中身

1 理科のポイント　4つ
2 主な変更点　6項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　5項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　2項目
6 今からできる準備チェックリスト　6項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 指導案（試案）　1本
9 現行の学習指導要領・解説（中学校）

無料　原田英語.com 次期学習指導要領ナビ
研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

理科の3行要約（全校種）

1. 小・中・高で理科の目標と「見方・考え方」の文言を統一し、学習内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理し直す方向。
2. 中・高に「科学とは何か」や研究倫理を学ぶ「科学ガイダンス」、小学校に分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新しく設けることが適当とされた。
3. 高校は「科学と人間生活（8新単位）」だけで必履修を満たす道を加える案。学習内容は「統合的な理解・総合的な発揮」に必要なものに精選する方向。

1 理科のポイント

4つ

1 「科学ガイダンス」を新設

理科と社会・職業との関係が十分理解されていないことが課題とされています。そこで、科学とは何か、理科の全体像、研究倫理などを学ぶ「科学ガイダンス」を中学・高校に新しく設ける方向です。知識の暗記を求める指導にならないようにとしています。 P187

授業では、たとえば 1年の最初に「科学的に確かめるとはどういうことか」を、身近なうわさ話を例に話し合う。そんな導入の授業が考えられます。

2 社会の言説も科学の目で

新しい見方・考え方の案は「自然や社会の事象・言説を」科学の視点で捉えるものです。実験の結果や科学的な知見に基づき、客観的・論理的・批判的に考えます。非科学的なデマがSNSで広がる時代に、科学的な素養をすべての人に身に付けることがねらいとされています。 P183

授業では、たとえば 健康食品の広告の主張を読み、「どんな実験なら確かめられるか」を班で考える。そんな学習が方向に沿う例です。

3 小中高を4分野でつなぐ

今は校種によって分野・領域の分け方や用語が違うことが課題とされています。次期は、小中高共通で物理・化学・生物・地学の4分野で学習内容を整理する方向です。各分野はさらに3つ程度の「区分」に分け、中学校3年間で身に付けたい姿を示すとしています。 P183 P186

授業では、たとえば 単元の初めに、小学校で学んだ同じ分野の内容を振り返り、高校でどう発展するかも示す。そんなつなぎ方が考えられます。

4 学び直しや発展的な実験の時間

調整授業時数制度の対象に理科も入るとされています。「裁量的な時間」を使えば、理科の授業を発展させた観察・実験の体験プログラムなどが考えられるとしています。校内での単元構想の研究なども例としてあげられています。 P190

授業では、たとえば 裁量的な時間を使い、授業で学んだ内容を発展させた野外観察を行う。そんな取組が一例として考えられます。

2 主な変更点

6項目

1. 中 高 中学校・高校に「科学ガイダンス」を新設する方向

各分野の学習に入る前に、「科学とは何か、科学的とは何か」、理科の全体像と分野どうしの関係、研究倫理、検証の方法、理科と研究・社会とのつながりを学ぶ内容を中・高に新たに設けることが適当とされた。理科を学ぶ意味を実感させ、知的好奇心を引き出す導入であり、知識の暗記を求める指導にしないよう注意されている。高校では各「○○基礎」に位置付け、最初に学ぶ基礎科目の冒頭である程度まとめて扱う案である。総授業時数を増やさないことが前提である。 P183 P187

2. 学習内容の見直し・精選で授業時間に「余白」をつくる

理科は実験のやり直しなどで時間を組み替えることが多いため、時間の余白が不可欠とされた。「統合的な理解」「総合的な発揮」に欠かせない内容を中心に並べ、必ずしも必要でない内容や、学年・学校種の間で重なりが大きい内容は整理する方向である。教科書についても、必ず扱う内容か必要に応じて扱う内容かが分かる工夫を教科書会社に求めることが考えられている。 P189

3. 小・中・高の学習内容を4つの「分野」（物理・化学・生物・地学）で統一

学校段階のつながりや学問の筋道を分かりやすくするため、小・中・高で共通して4分野に分けて内容を整理することが適当とされた。さらに各分野を3つ程度の「区分」に分け、区分ごと・学校種ごとに「統合的な理解・総合的な発揮」を示す方向である。小学校の内容が難しくなるわけではないことは、国が丁寧に知らせるとしている。 P183 P186

4. 目標と「見方・考え方」を小中高で統一し、社会の情報も対象に

教科の目標の文言を小・中・高でそろえる方向である。「見方・考え方」は、デマやフェイクニュースが広がる時代を踏まえ、メディアリテラシーや批判的思考を意識したものにし、対象を「自然の事物・現象」から「自然や社会の事象・言説」へ広げる案である。また「科学的な視点」は「自然科学的な視点」と言い換え、人文・社会科学との違いをはっきりさせるとしている。 P183 P185

5. 「科学的な探究」の過程を教育課程全体に位置付け、用語もそろえる

今は学校種によって探究の過程の用語などが違い、教科として統一されていないという課題がある。そこで「科学的な探究」の過程を小中高を通して位置付け、解説などで具体的に示すべきとされた。資料編の案では、授業で「課題」を「問い」、「仮説」を「予想」などと言い換えることは妨げないとしている。 P182 P183

6. 表形式化は「並列パターン」、「統合的な理解」は平易に示す

理科は知識・技能の積み上がりがはっきりしているので、知識・技能と思考力などを並べて示す「並列パターン」で整理する方向である。「統合的な理解」は、個々の知識をどんな大きな理解に結び付けるかを先生がイメージできるよう、高校も含めできるだけ平易に示すとしている。「総合的な発揮」は、どの区分でも「特徴を見いだして表現する」ことを共通で示し、毎日の授業で科学の考え方を実践できるようにするとしている。 P186

3 現行と次期の比較（新旧対照）

5項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
教科の目標（柱書）	小学校は「問題を科学的に解決するために必要な資質・能力」、中・高は「科学的に探究するために必要な資質・能力」など、学校段階ごとに文言が少しずつ違う。	基本の方向は変えずに、小・中・高で同じ文言に統一する方向（到達の目安は解説で学校段階ごとに説明）。 P185
目標の「学びに向かう力」で育てたい心情	「自然を愛する心情」などは小学校理科だけに書かれている。	小・中・高共通で「生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情」と示す案。 P185
見方・考え方	「（身近な）自然の事物・現象」を「科学的な視点」で捉え、比較したり関係付けたりする方法で考える（小は問題解決、中高は科学的に探究する方法）。	「自然や社会の事象・言説」を「自然科学的な視点」から捉え、観察・実験の結果や科学的知見に基づいて客観的・論理的・批判的に考える、と小中高で統一する案。 P183 P185

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
学習内容の分け方	中学校は第1分野・第2分野、内容は「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域で整理されている。	小・中・高共通で**4つの「分野」（物理・化学・生物・地学）**に分け、各分野をさらに3つ程度の「**区分**」にする方向。4領域で育てていた中心の考えは「統合的な理解・総合的な発揮」で表す考え方。P186
「科学と人間生活」の学び方	物理・化学・生物・地学に関する各項目で、それぞれ2つのうち1つを選んで学ぶ。	両方を学ぶことも可能にすることが適当とされた（その場合は**4単位程度**＝8新単位）。内容も中学校とのつながりと身近さを重視して見直す方向。P188

4 授業時数

高校：新しい単位計算（1新単位＝50分×17コマ、P46）で、科学と人間生活4 or 8、各基礎4、各「○○」8新単位（現行は2・2・4単位、P82）。組替えのしくみで例：物理基礎＋物理 現行6単位→5～6単位、基礎4科目 現行8単位→6～8単位（細分化しない場合、P190）。小・中：理科の節に具体的な時数の記載はない。総論では、情報の新教科・領域の時数を生むため、小学校3年以上の教科等（35コマ以下のものを除く）から一律3-4%程度を「広く薄く」減らす考え方を示し、実数は今後示すとしている（P79）。理科は調整授業時数の対象教科でもある（P190）。科学ガイダンスは総授業時数を増やさないことが前提（P187）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

2項目

1. 生成AIとデマ・フェイクニュースの時代の科学的な素養

生成AIの発展もあって、非科学的なデマやフェイクニュースがSNSなどで急速に広がっています。だからこそ全ての人に科学的な素養を身に付けさせる理科教育の重要性が高まっており、科学的に探究する従来の「見方・考え方」は引き続き適切だとされています。P183 P185

2. ICT活用例に「生成AIを適切かつ効果的に利用する」

理科のICT活用は学校や地域で差が大きいので、デジタルとアナログの適切な組み合わせを含む効果的な事例を、国が改訂を待たず広く知らせます。例として、データの記録・蓄積、シミュレーション、センサー、AR/VR、生成AIの適切かつ効果的な利用、ポートフォリオなどが挙がっています。P191

6 今からできる準備チェックリスト

6項目

- [ ] 今すぐ 小中（または中高）で、探究の過程を表す言葉（問題と課題、予想と仮説、計画、考察、結論など）の使い方の違いを一覧にし、ワークシートや掲示の言葉をそろえる準備をします。P182 P183
- [ ] 今すぐ デマや誇大広告、ニュースの中の科学的な主張など、「自然や社会の事象・言説」として授業で検証できる題材を集めておきます。実在の商品や個人を攻撃しない形に作り替えて使います。P183 P185
- [ ] 今すぐ 観察・実験の器具や実験計測用センサーの整備状況を点検し、理科教育設備整備費等補助金の対象を確かめて、更新の計画を立てます。P182 P192
- [ ] 告示まで 中学校・高校の年度初めの授業を、「科学とは何か」「検証の方法」「研究倫理」などを体験的に考える時間として作り直し、「科学ガイダンス」を先取りします。用語の暗記にならないよう、活動中心にします。P184 P187
- [ ] 告示まで 現行の学習指導要領・解説に照らして必須事項を確認したうえで、発展資料や例示の扱いを見直し、再実験などに使える時間の余白を単元計画の中で検討します。次期課程での正式な区分は、告示・解説・教師用指導書の公表後に反映します。P189

☐ 全面実施まで 小中（または中高）の先生で合同の研究授業や教材研究を行い、学校種をまたいだ学習内容のつながりを確かめます。調整授業時数の「研究・研修等枠」の活用例にもあがっている取組です。P182 P190

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

中1（年度初め） 1単位時間（50分）

その広告、科学的に確かめられる？

架空の広告の主張を、比べる・条件をそろえる・くり返すの視点で検証する計画を立てます。

手順・ワークシート

ねらい

身近な主張について、確かめられる形に言い換え、比べる対象・そろえる条件・回数を考えた検証の計画を立てることを通して、科学的に確かめるとはどういうことかを自分の言葉で説明できる。

流れ

- 5分 広告カード①を見せ、「本当だと思う？」と聞きます。「愛用者の声」が根拠になっているかを問い、本時の問い「科学的に確かめるとはどういうことか」を示します。
- 10分 班で①の主張を確かめられる形に言い換えます（例：「石を置いた鉢と置かない鉢で、2週間後の草たけを比べると差が出る」）。比べる相手、そろえる条件（植物の種類・土・水・日当たり）、数（それぞれ何鉢ずつか）を検証計画シートに書きます。
- 10分 班ごとに計画を発表し、観点カードを使って「この計画なら、別の人がくり返しても同じ傾向が得られるか」「たまたまの差ではないと言えるか」を質問し合います。
- 10分 ②か③を選び、同じように計画を立てます。②は「頭がよくなる」があいまいで測り方を決めにくいことに気付かせ、「確かめられる主張」と「確かめにくい主張」があることを話し合います。
- 10分 先生が「都合のよい結果だけを選んで発表したらどうなるか」と投げかけ、データを正直に扱うこと（研究倫理）がなぜ大切かを班で考えます。小学校で行った条件をそろえる実験（例：発芽の条件）を思い出させ、これからの理科の学習とつなげます。
- 5分 振り返りとして、「科学的に確かめる」とはどういうことかを、今日の言葉を使って2〜3文で書きます。

評価

【思考・判断・表現】主張を確かめられる形に言い換え、比べる対象・そろえる条件・回数を考えた検証計画を立てているかを、検証計画シートで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】ほかの班の計画に観点をもって質問し、自分たちの計画を見直そうとしているかを見ます。用語を覚えたかどうかではなく、計画の中で考え方を使えているかを重く見ます。

8 指導案（試案）

1本

中学校第1学年　理科　全6時間（本時は第4時）

身の回りの物質とその性質 ～白い粉の正体を、実験で確かめて見きわめよう～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、理科の見方・考え方（案）の対象を「自然や社会の事象・言説」に広げ、観察、実験の結果などに基づいて客観的、論理的、批判的に考察するという方向性と、「科学的な探究」の過程を小・中・高で位置付けて用語をそろえるという方向性を先取りした試案である。次期学…

指導案の全文

本時のねらい

3種類の白い粉の正体を見分けるために、これまでに学んだ物質の性質の調べ方を組み合わせて検証計画を立てて実験し、結果を根拠にして結論を表現することができる。

本時の流れ

- **5分** 導入 先生が教材として用意した容器A・B・C（中身は砂糖・食塩・デンプンのどれかであることを先生が確かめ済み）の正体を見分ける、という課題を知る。友達の「見た目と手ざわりで分かるよ」という言い分を聞き、本時の課題を確かめる。
- **10分** 展開 班で仮説（予想）と検証計画を立てる。まず見た目と手ざわり（ルーペで観察）で予想を書き、次に、どの方法（水にとかす・加熱する など）をどの順で行えば3つを区別できるか、結果がどうなればどの物質と言えるかを「予想の表」にまとめる。
- **25分** 展開 計画に沿って実験する。①ルーペで粒の形を観察し、手ざわりを記録する。②少量を水に入れてかき混ぜ、とけ方を調べる。③燃焼さじにのせてガスバーナーで加熱し、変化（とける・こげる・はじける など）を調べる。結果を表に記録する。最後の5分で、ガスバーナーの火を消し、燃焼さじが冷めてから集めて片付ける。
- **5分** 展開 記録した表をもとに、結論と根拠を書く（班の結果の共有表への入力と、他の班の結果との比較は第5時に行う）。
- **5分** まとめ 友達の言い分「見た目と手ざわりで分かる」に、実験の結果を使って答える一文を書く。見分けるのに役立った性質を全体で確認する。

PDF版：shidoan-chu1-rika-shiroi-kona.pdf（ダウンロードコーナー）

9 現行の学習指導要領・解説（中学校）

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編**
https://www.mext.go.jp/content/20260730-mxt_kyoiku01-100002608_05.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る